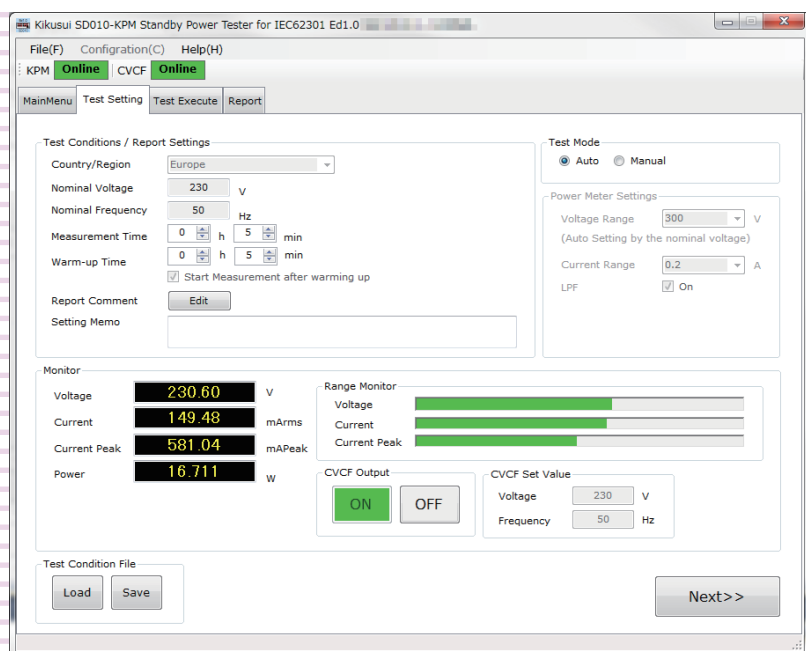


オペレーションガイド

アプリケーションソフトウェア

SD010-KPM Standby Power Tester for IEC62301 Ed1.0 Ver. 1.1x



はじめに 3

Standby Power Tester とは 4

システム構成 4

画面構成 5

Configuration ウィンドウ 5

メインウィンドウ 6

通信を確立する 7

初回起動時の設定 9

2回目以降の起動 9

試験を開始する 10

新規試験を開始する 10

既存の試験条件ファイルを読み込んで試験を開始する 10

試験条件を設定する 11

新規に試験条件を設定する 13

試験条件をファイルに保存する 14

既存の試験条件を読み込む 14

試験を実行する 15

試験を実行する 16

電源品質のチェック 19

試験結果のチェック 20

試験を中止する 21

試験ステータスログを消去 / 保存する 21

試験結果とレポート 22

試験レポートを印刷する 23

試験レポートをファイルに保存する 23

試験結果をファイルに保存する 23

既存の試験結果を読み込む 23

コメントを編集する 24

うまくいかないときには 26

メニューリファレンス 27

本書について

本書は一部または全部を印刷して使用していただくための PDF 版オペレーションガイドです。

■ 著作権・発行

本書の一部または全部の転載、複写は著作権者の許諾が必要です。

本書の内容は予告なく変更することがあります。

© 2012 菊水電子工業株式会社

はじめに

本オペレーションガイドは、SD010-KPM Standby Power Tester for IEC62301 for Ed1.0 を使用して IEC 規格（IEC62301 Ed1.0）準拠の手順で待機電力を測定する方法を説明します。

■ 適用する製品のバージョン

本オペレーションガイドは、バージョン 1.1x の Standby Power Tester に適用します。バージョンは、メインウィンドウのタイトルバーに表示されます。

■ 関連機器のバージョン

対応ファームウェアバージョンは下記のとおりです。ファームウェアバージョンは、電源投入時に、ディスプレイ部（KPM1000）またはコントロールパネル表示部（交流電源）に表示されます。

- KPM1000 デジタルパワーメータ：全バージョン
- PCR-LE（交流電源）：バージョン 1.00 以降
- PCR-LA（交流電源）：バージョン 3.40 以降
- PCR-L（交流電源）：バージョン 2.09 以降
- PCR-M（交流電源）：バージョン 1.21 以降
- PCR-W（交流電源）：バージョン 1.03 以降

■ オペレーションガイドの対象読者

本オペレーションガイドは、デジタルパワーメータ KPM1000 を使用して待機電力を測定される方、または操作の指導をされる方を対象にしています。

電力測定に関する電氣的知識を有する方を前提に説明しています。

■ 商標類

Microsoft、Windows は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。その他、本書に記載されている会社名、商品名、製品名などは、一般に各社の商標もしくは登録商標です。

■ 本書の表記

- 本文中では、デジタルパワーメータ KPM1000 を「KPM1000」と呼ぶことがあります。
- 本文中では、SD010-KPM Standby Power Tester for IEC62301 Ed1.0（本アプリケーション）を「Standby Power Tester」と呼ぶことがあります。
- 本文中では、PCR-LE、PCR-LA、PCR-L、PCR-M、PCR-W の各シリーズを「PCR シリーズ」と呼ぶことがあります。
- 本文中の「パソコン」は、パーソナルコンピュータやワークステーションの総称です。
- 本文中では、説明に以下のマークを使用しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、物的損害のみの発生が想定される内容を示します。



NOTE

知っておいて頂きたいことを示しています。



参照

詳細についての参照先を示しています。

Standby Power Tester とは

Standby Power Tester は、デジタルパワーメータ KPM1000 を使用して IEC 規格（IEC62301 Ed1.0）に準拠した待機電力測定試験を実行するアプリケーションソフトウェアです。KPM1000 をパソコンからリモート制御する一貫した操作で、試験条件を設定し、試験を実行し、試験レポートを作成できます。試験条件、試験結果、試験レポートはファイルに保存できます。試験レポートは、PDF、Microsoft Excel および Word 形式で保存できます。

また Standby Power Tester を使用して、当社製の交流電源（PCR-LE/ PCR-LA/ PCR-L/ PCR-M/ PCR-W 各シリーズ）をリモートで一括操作できます。

Standby Power Tester には以下の機能があります。

- ・ KPM1000 および交流電源（PCR-LE/ PCR-LA/ PCR-L/ PCR-M/ PCR-W 各シリーズ）のリモート制御（パソコン経由）
- ・ 試験条件の設定／保存
- ・ 試験の開始／設定
- ・ 試験結果の表示（電力変動の安定 / 非安定判定）
- ・ 試験結果ファイルの保存
- ・ 測定値（電流・電圧の実効値、有効電力、皮相電力、力率、周波数）のモニタ
- ・ 試験レポートの保存

■ 適合規格

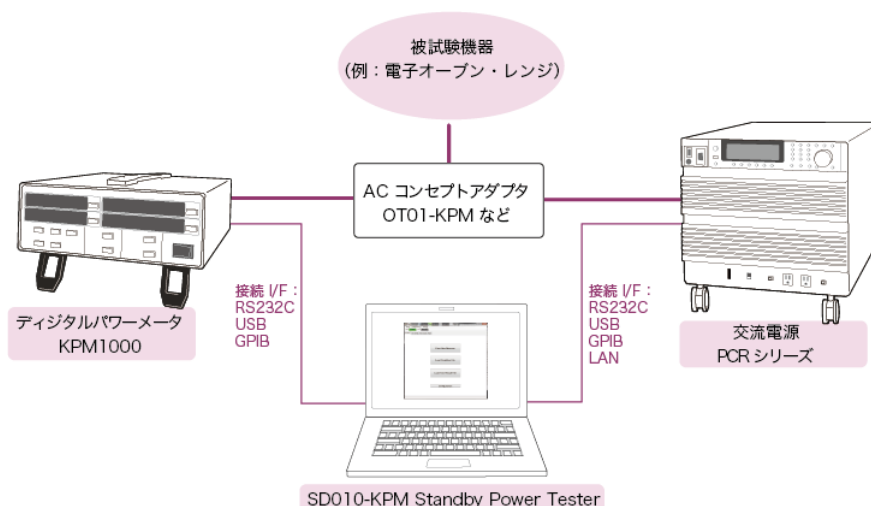
IEC62301 Ed1.0 に準拠しています。

システム構成

待機電力測定試験のシステム構成です。KPM1000 および交流電源（当社製 PCR シリーズ）とパソコンは、RS232C、USB、GPIB、および LAN（一部の PCR シリーズのみ）インターフェースで接続できます。

NOTE

使用するインターフェースによってはオプションが必要になる場合があります。また、一部の交流電源（PCR シリーズ）では選択できないインターフェースがあります。詳細については、各機器の取扱説明書を参照してください。

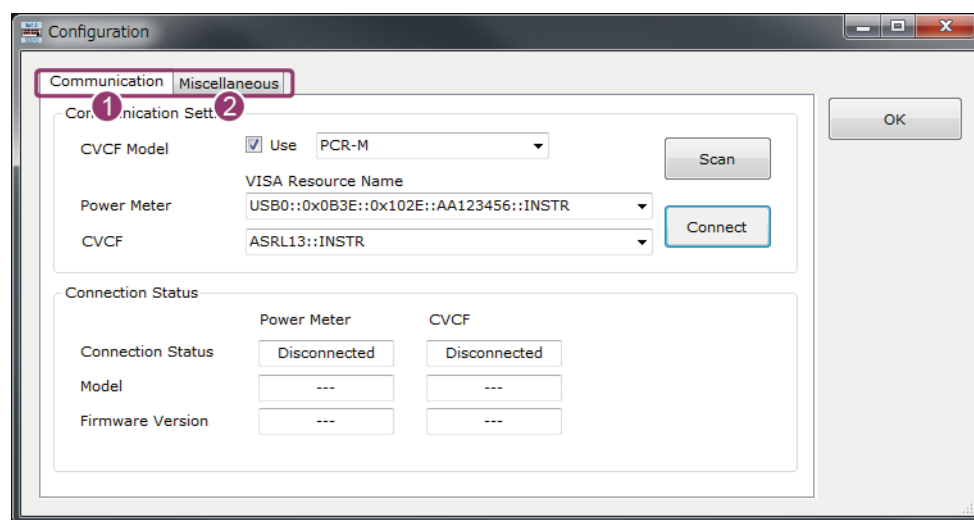


画面構成

Standby Power Tester は、メインウィンドウと Configuration ウィンドウの2つで操作します。

Configuration ウィンドウ

Configuration ウィンドウでは、通信設定を行います。

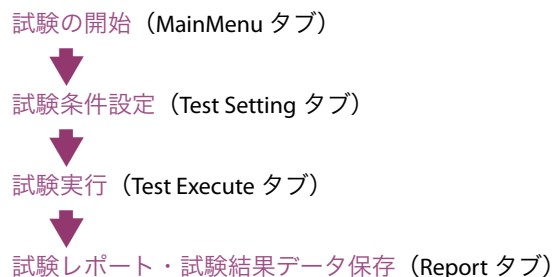


タブ	説明
① Communication	KPM1000 および交流電源（PCR-LE/ PCR-LA/ PCR-L/ PCR-M/ PCR-W 各シリーズ）との通信設定を行います。
② Miscellaneous	試験条件ファイル保存確認メッセージの表示 / 非表示を設定します。表示するには、「Confirm save "Condition File" before test execution.」にチェックします。

メインウィンドウ

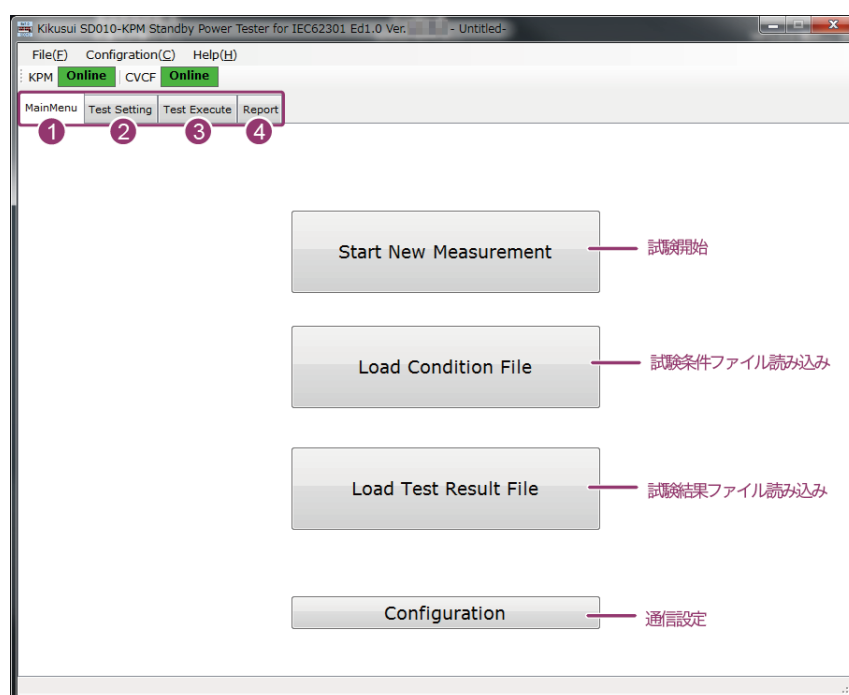
メインウィンドウは、4つのタブ（MainMenu、Test Setting、Test Execute、および Report）で構成され、起動時には MainMenu タブがアクティブな状態で開きます。

通常、次の順序で試験を実行します。



NOTE

タブ間を移動するには、タブ名を直接クリックするか、各タブの画面下部の「Next>>」または「<<Prev」ボタンをクリックします。



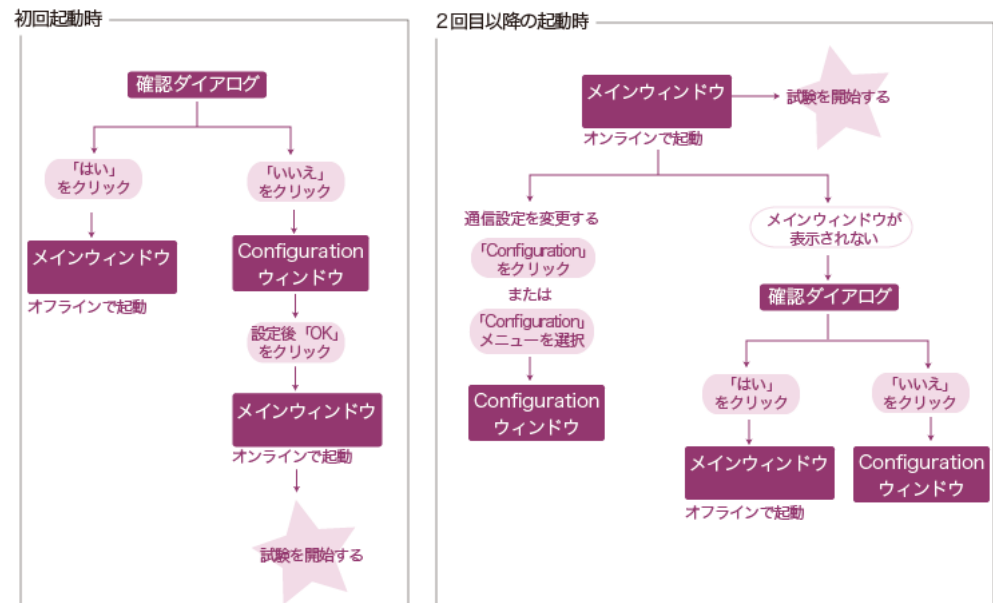
タブ	説明
① MainMenu	4つの操作（試験開始、試験条件ファイル読み込み、試験結果ファイル読み込み、Configuration ウィンドウ起動）へのボタンが表示されるホーム画面です。
② Test Setting	試験条件を設定します。 設定方法については、 試験条件を設定する を参照してください。
③ Test Execute	試験を実行します。 試験手順については、 試験を実行する を参照してください。
④ Report	試験レポートを印刷・保存、試験結果データを保存します。 保存方法については、 試験結果とレポート を参照してください。

通信を確立する

インストール後に初めて Standby Power Tester を起動すると、通信設定を行うかどうかを尋ねる確認ダイアログが表示されます。「はい」を選択すると、オフラインモードで起動しメインウィンドウが開きます。「いいえ」を選択すると、通信設定を行うための Configuration ウィンドウが開きます。

初回起動後すぐに通信設定を行う場合は、「いいえ」をクリックして Configuration ウィンドウを開きます。

2回目以降の起動時は、自動接続され起動後すぐにメインウィンドウが開きます。



NOTE

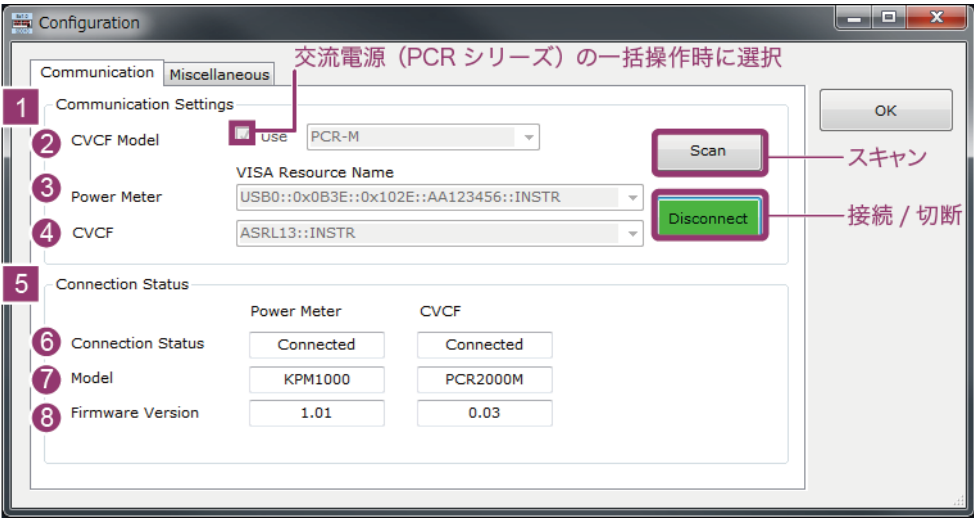
確認ダイアログで「いいえ」をクリックする操作以外に、次のいずれかの方法で Configuration ウィンドウを開くことができます。

- メインウィンドウの MainMenu タブで「Configuration」ボタンをクリックする。



- メインウィンドウの Report タブで「Configuration」メニューを選択する。
(Report 以外のタブがアクティブな状態では選択できません。)

■ Configuration ウィンドウ



項目	説明
1 Communication Settings	通信設定
2 CVCF Model	使用する交流電源の製品名を選択します。 当社製の交流電源（PCR シリーズ）を一括操作する場合は、「Use」を選択します。
3 Power Meter	KPM1000 の機器 ID（VISA リソース名）を指定します。
4 CVCF	交流電源の機器 ID（VISA リソース名）を指定します。
5 Connection Status	通信状況表示
6 Connection Status	通信状況を表示します。 • Connected（接続中） • Disconnected（未接続）
7 Model	製品名を表示します。
8 Firmware Version	ファームウェアのバージョンを表示します。

初回起動時の設定

- 1 確認ダイアログで「いいえ」をクリックします。
Configuration ウィンドウが開きます。
- 2 「Power Meter」のプルダウンメニューで、KPM1000 の機器 ID (VISA リソース名) を選択します。
交流電源 (PCR シリーズ) を一括操作する場合は、「CVCF Model」の右横の「Use」を選択し、「CVCF」のプルダウンメニューで交流電源の機器 ID (VISA リソース名) を選択します。
- 3 「Connect」ボタンをクリックします。
通信が開始します。接続に成功すると、「Connection Status」に「Connected」と表示され、機器名とファームウェアバージョン情報が表示されます。
- 4 接続が完了したら、「OK」をクリックします。
メインウィンドウが開きます。

参照
p. 6

NOTE

接続できない、あるいは VISA リソース名が表示されない場合は、次の手順で再操作してください。

1. セットアップガイドを参照して、接続および通信設定を確認する。
2. 「Scan」ボタンをクリックして機器を再検出する。

2 回目以降の起動

2 回目以降は、通信設定に従って自動接続されメインウィンドウが開きます。
自動接続に失敗した場合は、通信設定を行うかどうか尋ねる確認ダイアログが表示されます。通信設定を行うには「いいえ」をクリックします。オフライン状態で起動するには「はい」をクリックします。

NOTE

自動接続に失敗する場合、次のような原因が考えられます。

- KPM1000 の電源が入っていない
- USB-RS232C 変換ケーブル接続コネクタを変更したなどの理由で、設定済み VISA リソースで KPM1000 (または交流電源) と通信できない

試験を開始する

新規試験を開始する

- 1 メインウィンドウの **MainMenu** タブで「**Start New Measurement**」ボタンをクリックします。

Test Setting タブが開きます。



オフラインの場合は、ボタンはグレー表示され実行できません。

既存の試験条件ファイルを読み込んで試験を開始する

- 1 メインウィンドウの **MainMenu** タブで「**Load Condition File**」ボタンをクリックします。

ファイル選択画面が開きます。



- 2 試験条件ファイルを選択して「開く」をクリックします。

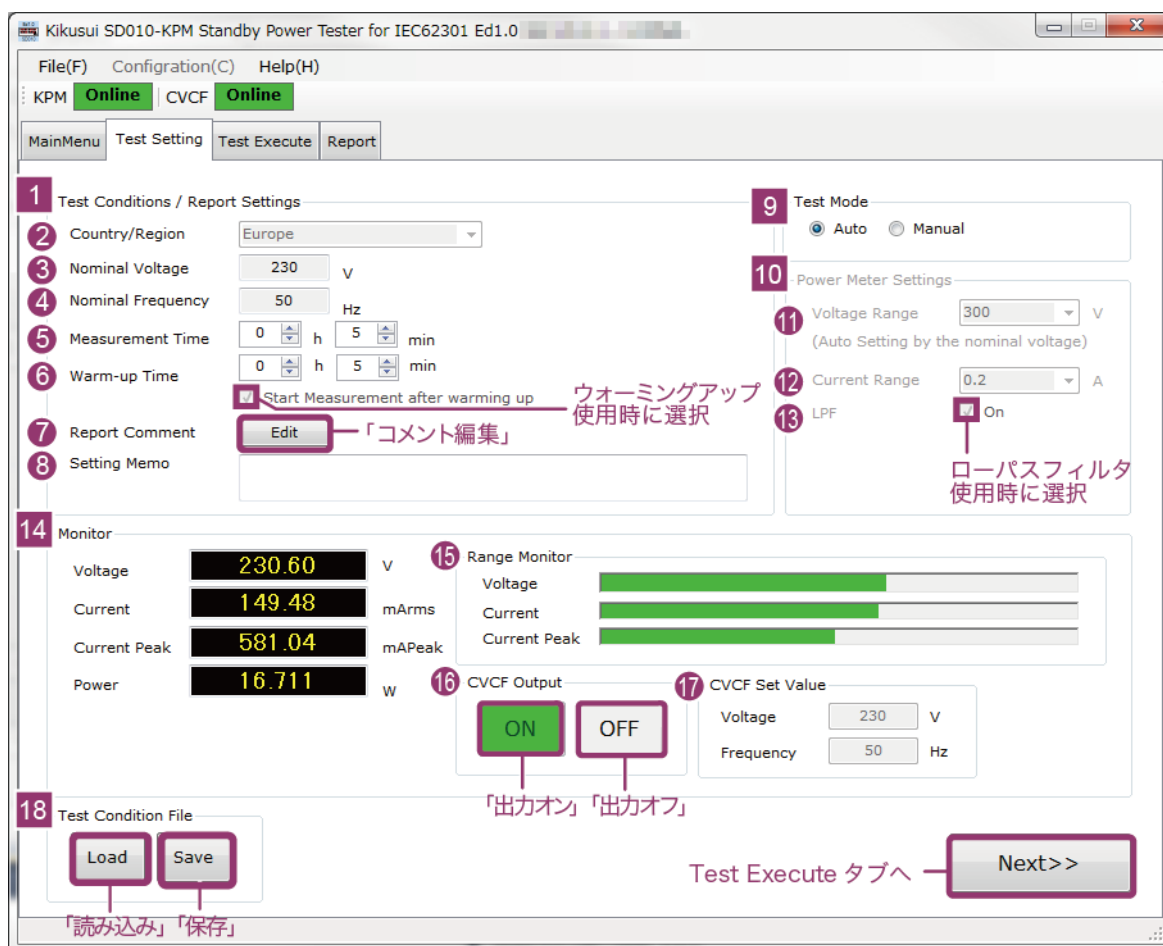
Test Setting タブが開き、読み込んだ試験条件が表示されます。

試験条件を設定する

メインウィンドウの Test Setting タブで、試験条件を設定します。

Test Setting タブの画面下部では、KPM1000 の計測値を確認したり、交流電源の出力を制御できます。

■ Test Setting タブ



項目	説明
1 Test Conditions/ Report Settings	試験条件・レポート設定
2 Country/ Region	仕向け先国を選択します。 「Other」を選択すると、任意の電圧値と周波数値を設定できます。*1
3 Nominal Voltage	公称電圧。自動設定されます。 (仕向け先国を選択すると自動設定されます。)
4 Nominal Frequency	公称周波数。自動設定されます。 (仕向け先国を選択すると自動設定されます。)
5 Measurement Time	試験時間を設定します。 ・ 設定範囲：1 分～99 時間 59 分（IEC62301 規格要求は 5 分以上）

項目	説明
⑥ Warm-up Time	試験実行前のウォーミングアップ時間を設定します。 ・ 設定範囲：1 分～ 99 時間 59 分（IEC62301 規格要求は 5 分以上） Test Mode を「Manual」に設定している場合は、「Start Measurement after warming up」の設定により、ウォーミングアップの有効／無効を選択できます。 Test Mode を「Auto」に設定している場合は、ウォーミングアップは有効に固定されます。
⑦ Report Comment	試験レポートに含めるコメントを編集します。「Edit」ボタンをクリックすると、試験レポートに含めるコメント入力ダイアログが開きます。 コメントは、試験完了後に Report タブで編集することもできます。 コメント編集の詳細は、 コメントを編集する を参照してください。
⑧ Setting Memo	試験条件の設定に関するメモを記入します。 メモは、試験条件および試験結果ファイルに保存されます。
⑨ Test Mode	試験モードを設定します。 ・ Auto: 電流レンジ、ウォームアップ有無、LPF 有無が自動で設定されるモードです。 ・ Manual: 電流レンジ、ウォームアップ有無、LPF 有無を手動で設定するモードです。
⑩ Power Meter Settings	パワーメータ設定
⑪ Voltage Range	電圧レンジ。自動設定されます。 （公称電圧に応じた最適レンジが自動設定されます。）
⑫ Current Range	電流レンジ。被試験器の最大電流値に合わせて設定します。
⑬ LPF	ローパスフィルタを使用する場合は「On」を選択します。 工場出荷時の設定では、「On」が選択されています。
⑭ Monitor	モニタ
⑮ Range Monitor ^{*2}	電圧、電流、ピーク電流のレンジを示すバーグラフです。 緑色：計測値がレンジの 30 % ～ 100 % の範囲内です。 オレンジ色：計測値がレンジの 30 % 未満または 100 % を超過しています。 赤色：オーバーレンジ状態です。
⑯ CVCF Output ^{*3}	交流電源の出力をオン／オフします。
⑰ CVCF Set Value ^{*3}	交流電源の公称電圧と公称周波数が表示されます。
⑱ Test Condition File	試験条件ファイル ・ Load：既存の試験条件ファイルを読み込みます。 ・ Save：試験条件をファイルに保存します。

*1. ご使用の交流電源の設定範囲外の値は入力しないでください。万一、設定範囲外の値を設定しても、値は正しく反映されません。

*2. ただしピーク電流の場合は、レンジの最大ピーク電流値の 90 % 未満で緑色、90 % ～ 95 % でオレンジ色、95 % 超過で赤色になります。

*3. CVCF が無効（Configuration ウィンドウの「CVCF Model」横の「Use」が未選択）の場合は、グレー表示され選択できません。

NOTE

Test Mode を「AUTO」に設定している場合、試験中の電流レンジは試験実行時（ウォーミングアップ終了時）に選択されているレンジに固定されます。またウォーミングアップ中は、レンジのアップ方向のみ制御され、試験中にオーバーレンジが発生しないよう最適なレンジが選択されます。

新規に試験条件を設定する

NOTE

- 試験条件を設定する前に、交流電源の出力をオフにしてください。
交流電源の出力がオンの状態では、「Country/Region」プルダウンメニューがグレー表示され、仕向け先国を選択できません。
- 公称電圧（Nominal Voltage）および公称周波数（Nominal Frequency）に任意の値を設定するには、仕向け先を「Other」に指定してください。

1 MainMenu タブで Start New Measurement ボタンをクリックするか、Test Setting タブをクリックします。

Test Setting タブが開きます。

2 交流電源の出力がオフであることを確認します。

交流電源の出力をオフするには、「CVCF Output」の「OFF」ボタンをクリックします。

3 「Test Conditions/ Report Settings」の「Country/Region」プルダウンメニューで仕向け先国を選択します。

仕向け先国を選択すると、「Nominal Voltage」および「Nominal Frequency」が自動設定されます。任意の値を設定するには、仕向け先国を「Other」にします。

国名、電圧、および周波数は、IEC62301 Ed.1.0 の 4.3 項 Table1–Typical nominal electricity supply details for some regions に準拠しています。

4 「Test Mode」で試験モードを指定します。

「Auto」モードを指定した場合は、手順 6 に進みます。電流レンジ、ウォームアップタイム有無、LPF 有無は自動的に設定されます。

「Manual」モードを指定した場合は、次の手順に進みます。

5 「Test Conditions/ Report Settings」の「Warm-up Time」でウォームアップ時間を指定し、「Power Meter Settings」の「Current Range」と「LPF」で電流レンジおよびローパスフィルタの使用 / 未使用を指定します。

■ ウォームアップ設定

試験前にウォームアップを実行する場合は、「Start Measurement after warming up」を選択します。

■ 電流レンジ設定

電流レンジ（Current Range）は、被試験器の最大電流に合わせて設定してください。レンジは、実効値電流がレンジの 120% を超えない、またピーク電流がレンジの 600% を超えない範囲で設定してください。「Range Monitor」に表示されるバーグラフを目安として確認しながら設定すると便利です。

■ ローパスフィルタ設定

「Power Meter Settings」の「LPF」右横の「On」を選択します。

待機電力のような微少な電流の測定時には、交流電源の出力に重畳される微量の雑音成分が影響して、測定値がばらつくことがあります。このような場合、ローパスフィルタ（LPF）を使用すると安定した測定を行うことができます。

- 6 「Measurement Time」で、試験時間を指定します。
- 7 交流電源の出力をオンします。
交流電源の出力をオンするには、「CVCF Output」の「ON」ボタンをクリックします。
- 8 設定が完了したら、画面右下の「Next>>」ボタンまたは **Test Execute** タブをクリックします。
Test Execute タブが開きます。

参照 p. 15

NOTE

試験条件を保存せずに Test Start を実行しようとすると、確認ダイアログが表示されます。確認ダイアログは、次のいずれかの方法で非表示にできます。

- 確認ダイアログの「次回から表示しない」をチェックする。
- Configuration ウィンドウの Miscellaneous タブで、「Confirm save “Condition File” before test execution」のチェックを外す。

試験条件をファイルに保存する

- 1 「Test Condition File」の「Save」ボタンをクリックします。
- 2 保存先と保存名を指定して、試験条件ファイルを保存します。

NOTE

「File」メニューから「Save」>「Condition File」を選択し、試験条件をファイルに保存することもできます。

既存の試験条件を読み込む

- 1 「Test Condition File」の「Load」ボタンをクリックします。
- 2 読み込むファイルを選択して開きます。

NOTE

次のいずれかの方法で試験条件ファイルを読み込むこともできます。

- 「File」メニューから「Load」>「Condition File」を選択し、ファイルを選択する。
- MainMenu タブの「Load Condition File」ボタンをクリックして、ファイルを選択する。

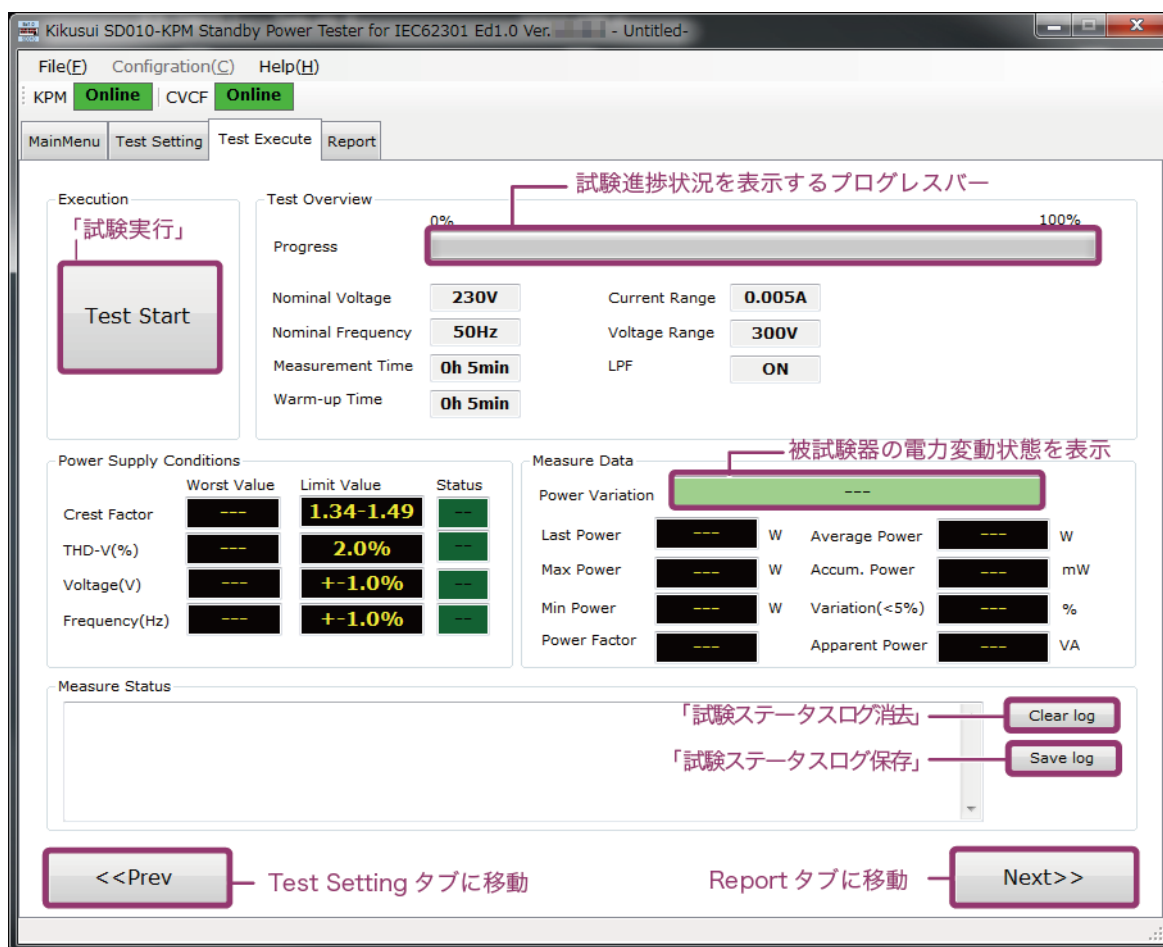
試験を実行する

設定した試験条件で試験を実行します。

NOTE

試験実行中は、別のタブには移動できません。

■ 「Test Execute」タブ



試験を実行する

NOTE

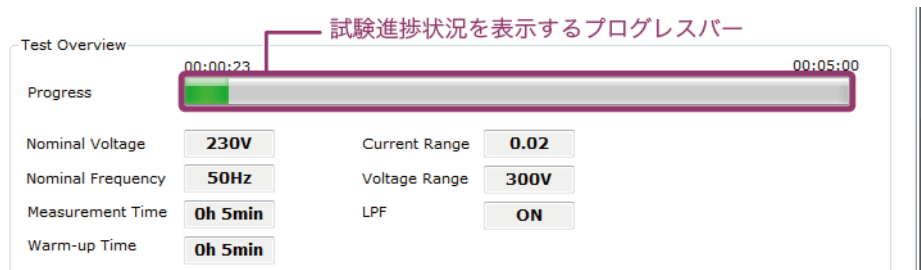
- 試験前のウォーミングアップを有効にした場合、指定のウォームアップ時間経過後に試験が開始します。
- 試験モードを「Auto」に設定した場合、ウォームアップ中の電流値に基づき電流レンジが設定され、試験が開始します。
- USB または GPIB 接続でご使用の場合、電源品質確認中に KPM1000 本体の「dAta trAnSFer」表示がちらつきますが、異常ではありません。

1 画面左上の「Test Start」ボタンをクリックします。

交流電源の状態が自動確認され、待機電力試験が開始します。

進行状況は、「Test Overview」の「Progress」バーに表示されます。

「Progress」バーの下には、試験条件が表示されます。



参照 p. 22

2 試験が完了したら、画面右下の「Next>>」ボタンをクリックするか、Report タブをクリックします。

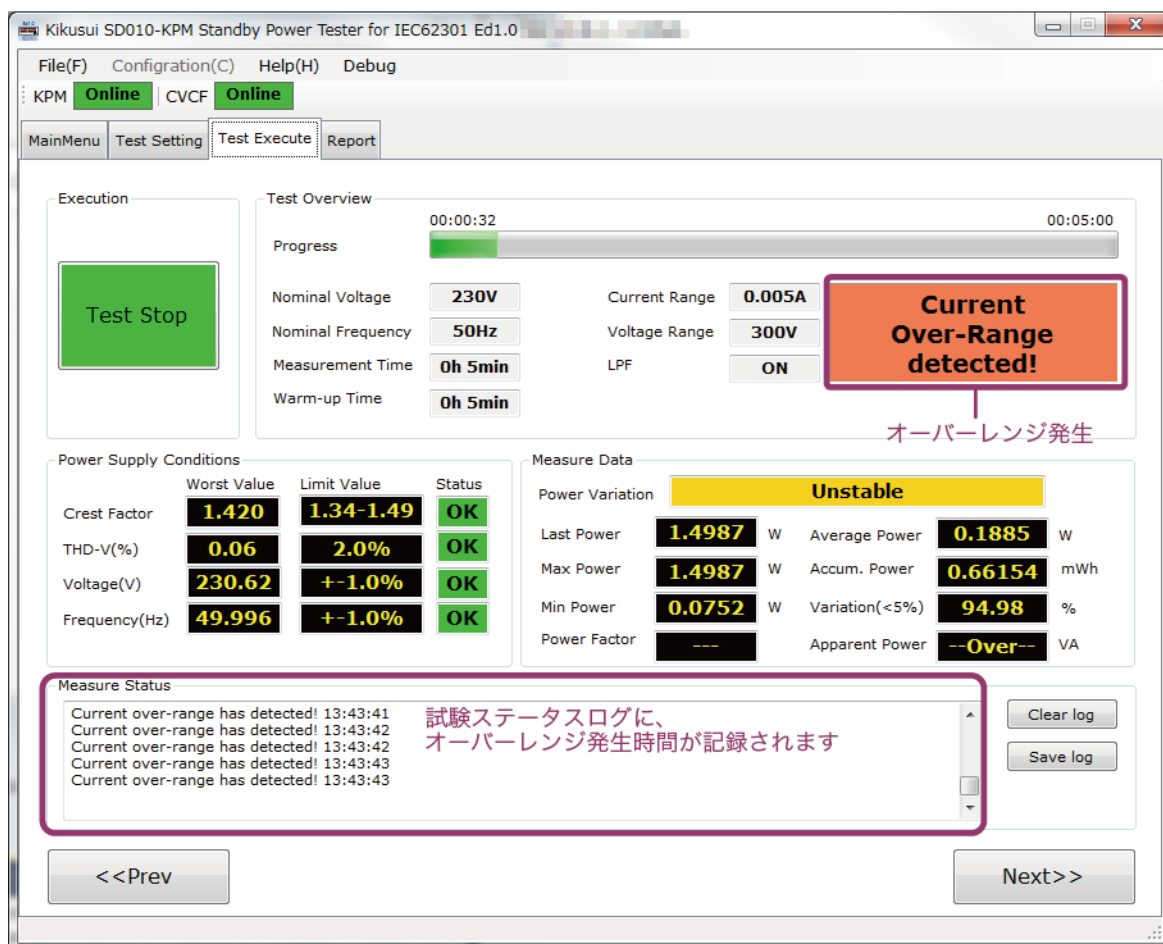
Report タブが開きます。

試験中にオーバーレンジが発生した場合

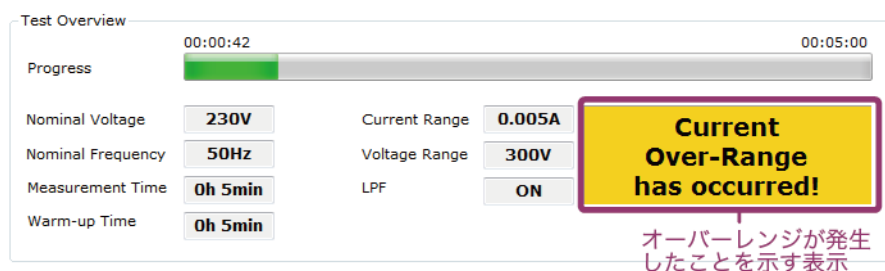
試験モードを「Manual」に設定している場合、あるいは試験モードを「Auto」に設定した状態で電流変動の大きな機器を試験する場合、試験中に電流のオーバーレンジが発生することがあります。

参照 p. 21

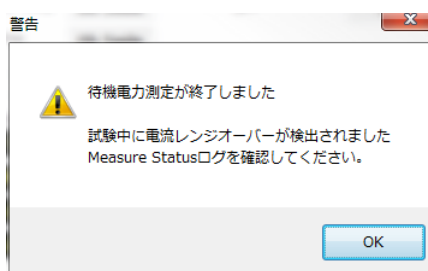
試験中にオーバーレンジが発生すると、試験進捗状況を示すプログレスバーの右下に「Current Over-Range detected!」と表示され、試験ステータスログにオーバーレンジ発生時間が記録されます。オーバーレンジが発生している間は、繰り返し、試験ステータスログに発生時間が記録されます。



試験中にオーバーレンジが一度でも発生すると、プログレスバーの右下には継続的に「Current Over-Range has occurred!」と表示され、試験中にオーバーレンジが発生したことが明示されます。



試験終了後には次のダイアログが表示され、オーバーレンジ発生が通知されます。



なお試験中にオーバーレンジが発生した場合、試験レポートの計測値には「Over-range has occurred. The value is for one's information only.」というコメントが追記されます。

参照 p. 22

3 Measured Data

Judge (Stable / Unstable)	
Unstable (But, over-range has occurred. The value is for one's information only.)	
Stable Measurement	
Item	Value
Measurement Period (hh:mm:ss)	
Power Variation (5% MAX)	73.55% (Over-range has occurred. The value is for one's information only.)
Max Power Value (W)	59.948W (Over-range has occurred. The value is for one's information only.)
Last Power Value (W)	16.496W (Over-range has occurred. The value is for one's information only.)
Unstable Measurement	
Item	Value
Measurement Period (hh:mm:ss)	00:01:00
Accumulated Energy (Whr)	319.737mWh (Over-range has occurred. The value is for one's information only.)
Average Power (W)	19.183W (by the 'Accumulated energy approach') (Over-range has occurred. The value is for one's information only.)
Detail Measured Data	
Item	Value
Apparent Power (VA)	34.291VA (Over-range has occurred. The value is for one's information only.)
Real Power Factor	0.480 (Over-range has occurred. The value is for one's information only.)

NOTE

- オーバーレンジ発生中の電力値は、「実際の電圧値 × 電流レンジの 130% の電流値」にもとづき算出されます。
例えば、実際の電圧値が 230.05 V、電流レンジが 0.01 A の場合、電力値は、2.9907 W ($230.05 \times 0.01 \times 1.3 = 2.9907 \text{ W}$) となります。
- オーバーレンジ発生時の計測値は、あくまでも参考値です。
計測方法が Average (平均電力法) の場合と Accumulated (積算電力法) の場合とでは、オーバーレンジ発生時の平均電力の値が異なります。これは、内部での計算方法が異なるためです。
計測方法の設定については、[試験結果とレポート](#)を参照してください。

電源品質のチェック

試験に使用している交流電源の品質測定結果は、「Power Supply Conditions」で確認します。

1	Power Supply Conditions			
		Worst Value	Limit Value	Status
2	Crest Factor	1.420	1.34-1.49	OK
3	THD-V(%)	0.06	2.0%	OK
4	Voltage(V)	230.58	+/-1.0%	OK
5	Frequency(Hz)	49.996	+/-1.0%	OK

■ 電源品質のチェック項目

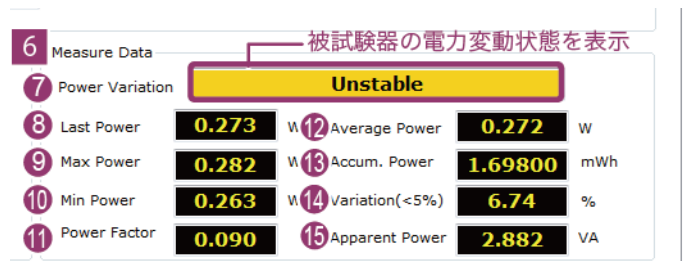
項目	説明	範囲
1	Power Supply Conditions	電源品質の測定結果
2	Crest Factor	電圧のクレストファクタ
3	THD-V(%)	電圧全高調波ひずみ率（2～13次）
4	Voltage(V)	電圧
5	Frequency(Hz)	周波数

NOTE

- ・ 上限・下限値は、IEC62301 Ed.1.0 の 4.3 項に準拠しています。
- ・ Standby Power Tester は、試験開始前に上記 4 項目の値を 1 度測定し、その結果を表示します。

試験結果のチェック

試験結果は、「Measure Data」で確認します。



■ 試験結果のチェック項目

項目	説明
6 Measure Data	試験結果
7 Power Variation	被試験器の電力変動幅のステータスを表示します。 Stable: 試験時間内の電力変動幅が Variation Limit 以下 Unstable: 試験時間内の電力変動幅が Variation Limit を超過
8 Last Power	試験終了時の電力
9 Max Power	試験時間内の最大電力
10 Min Power	試験時間内の最小電力
11 Power Factor	力率
12 Average Power	積算電力と試験時間から求めた平均電力
13 Accum. Power	試験時間内の積算電力
14 Variation (<5%)	試験時間内の最大値を基準にした電力変動幅
15 Apparent Power	皮相電力

NOTE

IEC62301 Ed1.0 は、Last Power（試験終了時の電力）または Average Power（平均電力）のどちらを測定値とすべきかについて規定しており、Power Variation（電力変動幅）が 5% 以下の場合は Last Power を、5% 超過の場合は Average Power を測定値として採用することとしています。（同規定 5.3.1 項「Where the selected mode is stable」参照）

試験を中止する

試験を中止するには、「Test Stop」ボタンをクリックします。

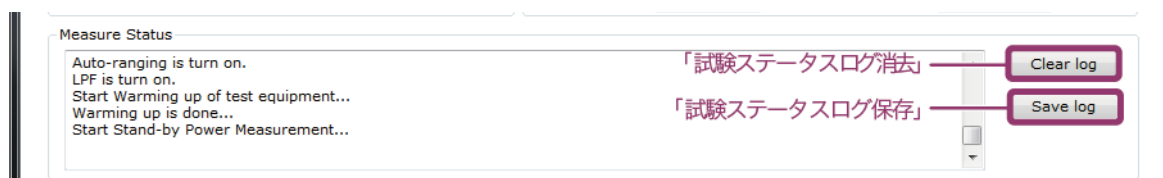


NOTE

試験開始後は、「Test Start」ボタンが「Test Stop」ボタンに切り換わります。

試験ステータスログを消去 / 保存する

「Measure Status」には、試験の進捗状況の詳細が表示されます。この試験ステータスログは、消去または保存することができます。テキスト形式で保存されるため、一般的なテキストエディタ（例：Windows のメモ帳）で内容を確認できます。



■ 消去するには

「Measure Status」の「Clear log」ボタンをクリックします。

■ 保存するには

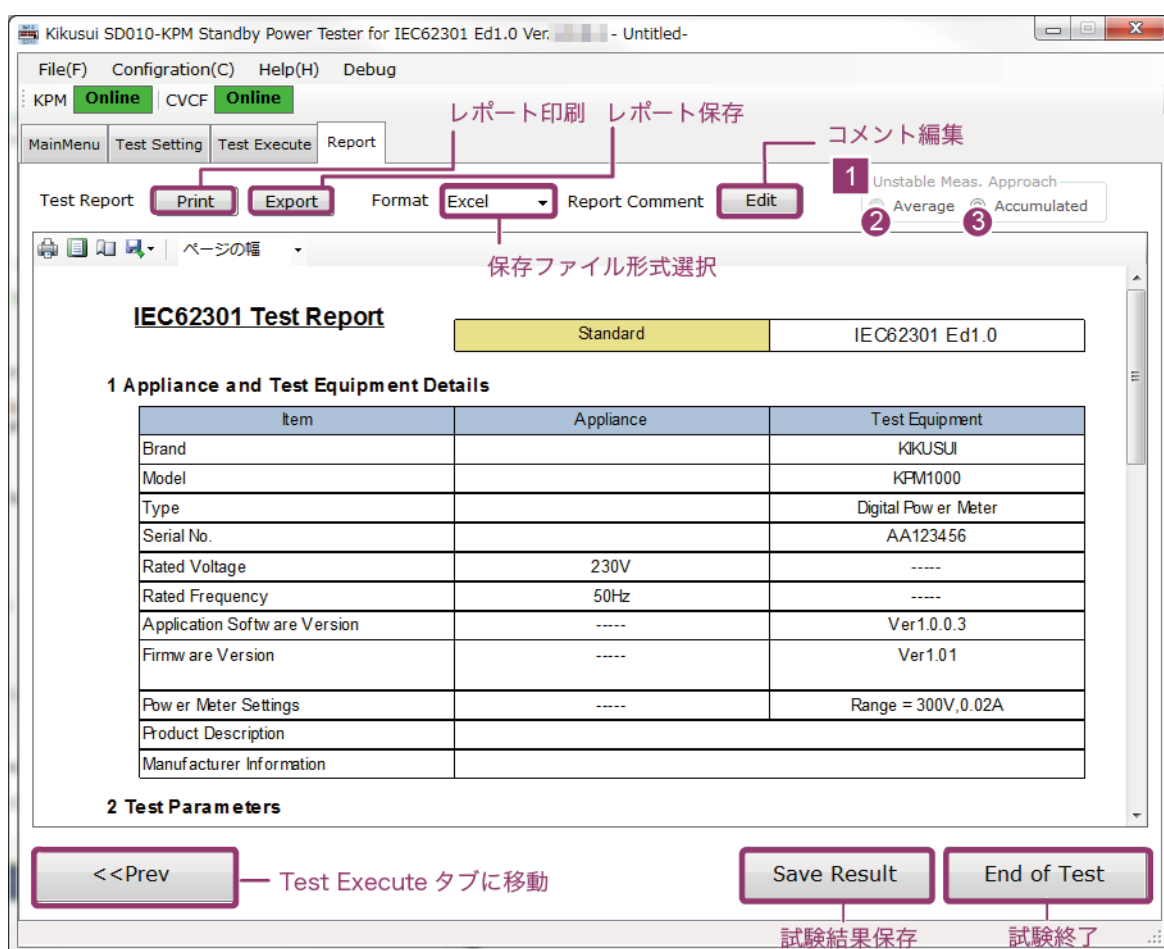
「Measure Status」の「Save log」ボタンをクリックします。

試験結果とレポート

試験レポートは、直接プリンタに出力して印刷するか、ファイルに保存します。
試験結果は、試験レポートまたは試験結果データとして保存します。
試験レポートに含めるコメントは、「Report Comments」ダイアログで編集します。詳細については、[コメントを編集する](#)を参照してください。

参照 p. 24

■ 「Report」 タブ



項目	説明
1 Unstable Meas. Approach*1	試験レポートに出力される平均電力の計算方式を選択します。 (工場出荷時は「Accumulated」に設定されています)
2 Average	平均電力法。 全試験期間の平均処理を行い、平均電力を求めます。
3 Accumulated	積算電力法。 積算電力と時間から平均電力を求めます。

*1. Test Execute タブで、「Measure Data」の「Power Variation」の表示が「Unstable」の場合のみ設定可能です。

NOTE

IEC62301 規格では、「Average Power Approach (平均電力法)」と「Accumulated Power Approach (積算電力法)」の2つの計測方法が認められています。
通常、どちらの測定方法を選択しても計測結果に有意差はありません。他社製品に合わせて計測方法を選択するなどの場合は、「Unstable Meas. Approach」で計測方法を指定してください。

試験レポートを印刷する

- 1 「Test Report」の「Print」ボタンをクリックします。
- 2 プリンタを指定し、印刷詳細および部数を設定して印刷します。

試験レポートをファイルに保存する

- 1 「Format」プルダウンメニューで保存ファイル形式を指定します。
「PDF」、「Excel」、または「Word」のいずれかの形式を選択します。
- 2 「Test Report」の「Export」ボタンをクリックします。
- 3 保存先と保存名を指定して、試験レポートを保存します。

NOTE

Microsoft Excel（.xls）形式または Microsoft Word（.doc）形式で保存した場合、ご使用の Excel または Word のバージョンによっては、文書レイアウトが崩れて表示されることがあります。このような場合には、改行位置およびフォントサイズを調整してレイアウトを修正してください。

試験結果をファイルに保存する

- 1 画面右下の「Save Result」ボタンをクリックします。
- 2 保存先と保存名を指定して、試験結果ファイルを保存します。

NOTE

「File」メニューから「Save」>「Result File」を選択し、試験結果ファイルを保存することもできます。

既存の試験結果を読み込む

既存の試験結果は、次のいずれかの方法で読み込むことができます。

■ メインウィンドウで Report タブがアクティブな場合

- 1 「File」メニューから「Load」>「Result File」を選択します。
- 2 読み込むファイルを選択します。
選択した試験結果が表示されます。

■ メインウィンドウで MainMenu タブがアクティブな場合

- 1 「Load Test Result File」 ボタンをクリックします。
ファイル選択画面が開きます。

Load Test Result File

- 2 試験結果ファイルを選択して「開く」をクリックします。
選択した試験結果が Report タブに表示されます。

NOTE

試験結果ファイルの読み込み後は、Test Execute タブに移動しても試験を実行することはできません。新たに試験を開始するには、MainMenu タブで「Start New Measurement」 ボタンをクリックするか、Test Setting タブで試験条件ファイルを一旦保存してください。

コメントを編集する

- 1 「Report Comment」の右横にある「Edit」 ボタンをクリックします。
「Report Comments」 フォームが開きます。
- 2 コメントを編集します。
コメントは日本語で入力することもできます。
コメント形式は、IEC62301 Ed1.0 「6 Test Report」 に準拠しています。

項目	説明
① Appliance and Test Equipment Details	被試験器に関する情報
② Brand	ブランド名
③ Model	型番
④ Type	種別
⑤ Serial No.	シリアル番号
⑥ Product description	製品概要
⑦ Manufacture Information	製造者情報
⑧ Test Parameters	試験パラメータ
⑨ Ambient Temp.	周囲温度
⑩ Information and documentation on the instrumentation	計測器に関する情報と技術文書
⑪ Measured Data	計測データ
⑫ Description of how the appliance mode	被試験器のモード概要
⑬ Any notes	注記
⑭ Test and laboratory details	試験および試験実施機関に関する情報
⑮ Test Report No.	試験レポート番号
⑯ Lab name_Address	試験実施機関の名称と住所
⑰ Test officer(s)	試験官
⑱ Remarks	試験についての所見

3 「OK」 ボタンをクリックして、コメントを確定します。

うまくいかないときには

本アプリケーションの操作がうまくいかないときには、下記の症状を確認し、対処法を実行してみてください。それでも問題が解決しない場合には、当社営業所へお問い合わせください。

症状	チェック項目	対処方法
プログラムが起動しない。	・ VISA COM ライブラリは正しくインストールされていますか？	・ すべてのライブラリを一旦アンインストールし、ライブラリを1つだけ再インストールしてください。 ・ 複数の VISA ライブラリが同一 PC にインストールされている場合、アプリケーションは正しく動作しません。
「Connect」ボタンを押しても計測器に接続できない。	・ KPM1000 および交流電源の通信速度、あるいは通信用 VISA アドレスは正しく設定されていますか？	・ KPM1000 または交流電源の取扱説明書を参照して正しく設定しなおしてください。 ・ KPM1000 または交流電源とパソコンを RS232C ケーブルで接続している場合、ボーレートは次の値に設定してください。 KPM1000: 38400 bps PCR-LE/ PCR-LA/ PCR-M: 19200 bps PCR-L/ PCR-W: 9600 bps
試験実行途中に試験が停止してしまう。	・ スクリーンセーバ動作時に、パスワードロックがかかる設定をしていますか？	・ スクリーンセーバの設定は「なし」に設定してください。
何を設定したのかよくわからなくなった。	・ KPM1000 と交流電源を工場出荷状態に戻してみましたか？	・ KPM1000 を工場出荷状態に戻すには、LOCAL キーを押しながら電源を投入してください。 ・ 交流電源（PCR シリーズ）を工場出荷状態に戻す方法については、各製品の取扱説明書を参照してください。（機種によって手順が異なります。）

メニューリファレンス

メニュー	説明
File	ファイル
Load	読み込み
Condition File	試験条件ファイルを読み込みます。
Result File	試験結果ファイルを読み込みます。
Save	保存
Condition File	現在の試験条件をファイルに書き込みます。
Result File	現在の試験結果をファイルに書き込みます。
Exit	プログラムを終了します。
Configuration ^{*1}	Configuration ウィンドウを開きます。
Help	ヘルプ
Online Manual(J)	オンラインマニュアル（日本語版）を開きます。
Online Manual(E)	オンラインマニュアル（英語版）を開きます。

*1. MainMenu タブまたは Report タブがアクティブな場合のみ選択できます。